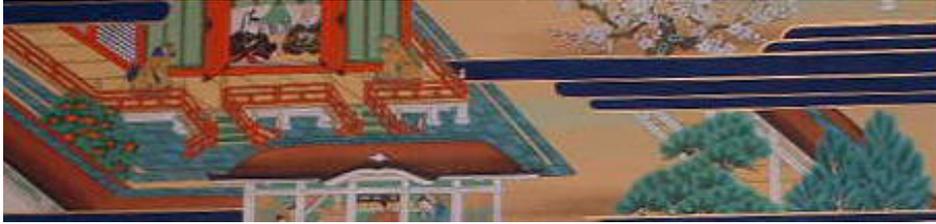


御絵伝 (その9)

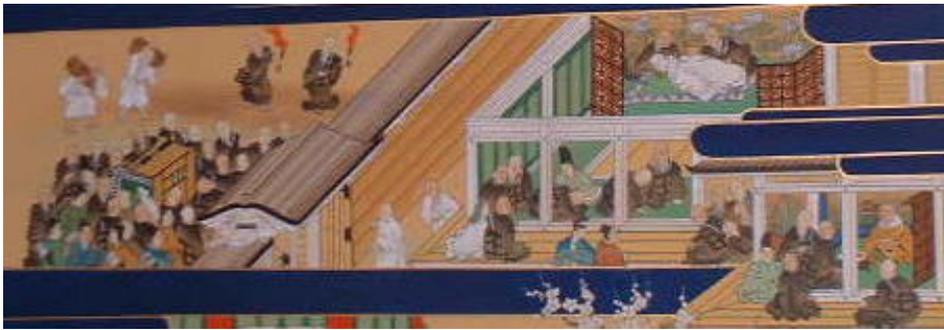
報恩講の時、内陣の余間に飾られる親鸞聖人の御生涯を描いた御絵伝は、御伝抄の内容を描いたものです。縦長の画幅のなかに、下から上へ順番に親鸞聖人のご生涯を見ることが出来ます。

第四軸・第三図 「熊野靈告」



熊野権現に参詣した平太郎が、社殿でうたた寝している中で霊夢を感得しているところが描かれています。

第四軸・第四図 「洛陽遷化」



向かって右下の右側は善法院でご病氣中の親鸞聖人、右上は親鸞聖人の御往生の様子。

左半分は親鸞聖人の御遺骸を輿（こし）に納め、延仁寺の茶毘所に送ろうとしているところが描かれています。
※善法院は、親鸞聖人の実弟、尋有（じんう）僧都のお寺です。

この善教寺寺報の編集作業が終われば、ようやく年賀状の作成に入れます。年賀状が終われば大掃除。そして除夜会（除夜の鐘撞き）と元旦会の準備。同時進行で、報恩講の参勤もあります。無事にお正月を迎えることが出来るでしょうか？

今年一年、有難うございました。また来年も宜しくお願ひします。では、良い年をお迎えくださいね。



帰敬式（おかみそり）

12月17日早朝の雪



つてしまうのでしよう。穏やかに齢を重ねたいと思っただけですが、年々、慌ただしくなっています。余裕が無くな

住職レター

今年も残り数日となりました。クリスマスイブの前日、家族が寝静まった夜中、慌ただしく善教寺報の編集作業中です。

十二月は、師走とは上手く言ったものだなと悶心しつつ、今年は何年以上に余裕が無かったように思います。おそらくこの冷え込みが、余裕の無さに拍車を掛けたのか。十二月に入ってから先の厳しい冷え込みと、例年以上の降雪量。つい先日は、大雪の中の通夜と葬式。気持ちばかりが先走ってしまい、余裕が無くな